

だしリノリウム、タイル、アスファルトタイル、ビニールタイルなど色の自由のきく材料のときは勿論、適当な明るさ ( $V=5\sim6$ ) と彩度 ( $C=2\sim3$ ) のものを選ぶのがよく、また木製のときは適当な色附をするのがよく、在来のように暗すぎないようにするのがよい。床はどちらかといえば暖色系 (10R~10YR) がよい。

f) 造作, 建具…建具や枠は外側と表裏一体となつていることが多いので、内外同色とするのが塗装上都合がよい。窓障子の場合は室内からは外部をみるとき黒い線となつて有害な対比を示しやすいからなるべく明るい色とするのがよい。しかし夜間使用するとき逆に暗い外部に対して、明るすぎる対比となることがあるから、夜間の照明状況を考慮して適当な対比となるようにしなければならない。(外部の項参照)

(3) 機械, 設備類の配色

作業者にとって最も直接的に影響をもつものは機械の色であつて、油で黒く汚れた在来の機械は決して人に好まれるものではない。したがつて手入れもお座なりとなり、故障の発見も困難となる。機械類の配色には次の点を考慮する。

(a) 機械本体…作業環境色として重要で工員の気分に影響するところが大きいから、やや明るい中間の明るさ ( $V=5\sim6$ ) とするのがよい。あまり明るすぎると油などの汚れが目立ち、保守がむづかしくなる。ただし非常に大型の機器が(船の機関室など)天井近くまで達しているような場合には壁と同じような扱ひとしてかなり明るく ( $V=7\sim8$ ) することがよい。彩度は眼を刺激しない程度の弱いもの ( $C=1.5\sim2.5$ ) とすることが望ましく、機械が多い所では低く、少い所では高い方をとる。色相は寒色系 (7.5BG~7.5B) が機械の材料的または機能的性格上最も適するが、気分的にやや陽氣にしたい場合には中色系 (7.5GY~7.5G) をとるのもよい。

d) 作業焦点…作業を行う直接の背景となる部分は本体よりやや明るい色 ( $V=7\sim9$ ) とし加工材料との対比をやや高める。彩度は本体よりも面積が少ないのでやや高目にしてもよく ( $C=2.5\sim3.5$ ) 色相は機械と補色に近い暖色系 (2.5YR~2.5Y) または中色系 (7.5GY~7.5G) とするのがよい。

c) 移動部…機械のクランクやシャフトなどの移動部は本体の固定部と区別しておいた方が作業中の事故をなくし、分解掃除、故障の発見などの際楽である。この場合の移動部は本体と同色系として明度を+2高める場合と、警戒色的に明視色YからYR系にする場合とある。前者は移動部全般に用い、後者は特に注意を要する箇所に用い5YR 8/3, 2.5Y 8/4などを用いる。把手、レバー等もこの系統にしておけば本体色と識別されやすく、操作のために費す神経が楽になる。天井走行クレー

ンのように特に注意を要する移動物では2.5Y8/6程度のやや強い色を用いて注意をひくようにするとよい。

d) 特殊部…油差穴、特に非常の際用いるバルブ、電纜差込口、開閉器などは、それぞれ他の部分とはつきり識別がつくようにした方がよい。油差穴は10YR 8/6、非常用バルブは5R5/2、差込口は10R8/4、開閉器内側は10R6/10程度とするのも一方法である。これらの特殊部分は他の部分と識別しやすいことが主目的であるから、本体色とか焦点色とかその記号のつけられる背景となる色と同じ明度、色相、彩度にならないように明度差を充分につける(できれば3~)ことが望ましく、それができない場合には特にその周辺を黒や白で輪郭をとるのがよい。

結び…終りに色彩調節は新しい技術であつて経験者が比較的少く、一寸文献をみただけで専門家になつたつもりで何等意匠的素養のない人が得意気ふるまつていゝるのをみかけるが、やはり同じ法則でも応用の細部のこまかい心遣いによつて効果が大変ちがつてくるから、すぐれた意匠的才能をもつた色彩専門家に相談されることが望ましい。なお本文中の表色記号はマンセル記号による。(生産研究27年11月号参照) (1953・6.1)

次号予告 (8月号)	
研究解説	
真空装置の洩れ探し法……………	富永 五郎
金属材料の塑性変型抵抗……………	鈴木 弘伸 橋爪 伸
サルファークラックが鋼材……………	安藤 良夫
疲労強度に及ぼす影響……………	
熱処理性アルミニウム—マ……………	中村 康治
グネシウム系耐食鋳物用合……………	加藤 正夫
金の研究……………	
研究速報	
橋の振動数の測定……………	岡本 舜三
デッドストップ法による自……………	仁木 栄次
動測定……………	
路面のスペクトル密度と……………	高橋 安人
自動車の振動……………	

第5巻 第6号 正誤表

頁	段	行	種別	正	誤
5	左	6	本文	×	X
"	"	18	"	K	k
"	"	23	"		
6		4	数式	$\delta n$	dn
7	右	下17	本文	必要	心要
9	左	4	"	約10kc	10kc
15	右	9	"	Z→0(ゼロ)	Z→O
17	左	21	"		
18	右	16	"	間隙	間際
19	右	2	"	Theta—函数	$\delta$ —函数
23	左	下2	"	50m	50cm